

kagoshima local network

みなみネット@鹿児島都市圏



後輩の演奏に聴き入る「どんこ会」メンバー
＝鹿児島市の城山観光ホテル

鹿工高OB 「心のよりどころ」
どんこ会50年

鹿児島市の鹿児島工業高校のOBグループ「どんこ会」(江藤正幸会長)が、創立50周年を迎えた。校庭の隅にかつてあった小池「どんこ(かえる)プール」にちなんで名付けた会。全国で活躍する仲間の心のよりどころとなっている。

城山観光ホテルで17日あった記念祝賀会には、80代も含む約70人が参加した。母校の吹奏楽部が駆け付け、「サライ」などの演奏で盛大に祝った。

卒業生の建設関係者の親睦を図ろうと、1967(昭和42)年11月に会員21人で発足した。現在は約60人。ほとんどが経営者という。

甲子園でベスト4になった後輩たちを応援したり、母校で仕事の厳しさをやりがいを伝える会を開いたり、学校の関わりを続ける。山元一善事務局長(61)は「この会で活動できることは誇り。大先輩の背中を見て学び、切磋琢磨していきたい」と話した。(永井貴士)

スイー

開発したスイーツについて発表する生徒ら

＝鹿児島市の鹿児島南高校



を花のように散らしたチョコケーキにクリスマス風の飾りを載せた「フルリール」(5号1800円)など。

雪解けシヨコラを開発した商業科の上須崎皓大さんは「ほろ苦くから現在の形に

「多くの人に楽しもらえたら」と頑張っている。

キリスト教カトリク系の同校では、時から募金活動しており、1998年から現在の形に

和菓子「味力」職人らが語る
鹿児島市でサミット

鹿児島市の和菓子の魅力を語り合う「和菓子サミット」が19日、鹿児島市であった。鹿児島市職人やバイヤーらが、和菓子に相性のいい飲み物や、地元食材を使った郷土菓子について思いを語った。

大手百貨店・高島屋の和菓子バイヤー畑主税さんは「サネンバナ(ゲットウ)を使った典さんは「和菓

菓子やあくまきや独自性に触れ、菓子にはワルフィー全国に発信でき、明治時代から続く屋(指宿市)の餅乃社長も「地元産ないものを探したい」と話した。

長島町の陶芸家典さんは「和菓



一斉にスタート
23日、鹿児島市

(5) 2017年(平成29年)11月21日(火) 第14045号 鹿児島建設新聞



節目を祝った祝賀会＝鹿児島市の城山観光ホテルで

鹿工どんこ会

創立50周年祝賀会

鹿児島工業高校卒業生で組織する「鹿児島工業どんこ会」(会長・江藤正幸江藤建設工業会長)の創立50周年記念祝賀会が17日、鹿児島市の城山観光ホテルで開かれた。会員ら約70人が出席し、節目を盛大に祝うとともに、さらなる結束を誓った。

同会は、建築関係業者の親睦を図ろうと初代会長の松岡隆光氏を中心とした有志らが1967年11月に発足。校庭の隅にあった「どんこプール」を偲んで名付けられた。

初めに、江藤会長は鹿工の同窓という形で強い絆を作り上げてきた先輩らに感謝したあと、「親睦、相互扶助、奉仕という同じ目的に向かって力を合わせて、これまで守ってきたものを継承し、母校の発展や後進

母校の発展に協力

のために惜しまない協力を続けていきたい」と挨拶。また、永里和吉同窓会長らが祝辞を寄せた。

祝賀会では、母校のために図書などを贈呈。江藤会長から田代裕一郎校長に目録が手渡された。

元会長の上山一吉氏の乾杯の音頭で開宴。校歌を斉唱し、当時を懐かしんだ。

また同日は、祝賀会の前に、県内出身でケーエスダイ(愛知県)の國分重人会長が「残心出合いこそ人生の宝！」をテーマに講演した。